

成長戦略 (長期ビジョン・中期経営計画)

朝日工業社グループは、どのような時代、いかなる環境の下にあっても、たえず未来を見つめ、時代の変化とお客さまをはじめとしたステークホルダーのニーズに向き合い、果敢に挑戦して、社会に信頼され必要とされる企業集団であり続けたいと考えています。その想いを実現するために、「さまざまな可能性に挑戦する『オンリーワン・カンパニー』」を目指す姿(ビジョン)に据えた長期ビジョン「ASAHI-VISION 100」を策定しました。

そして2023年度より、長期ビジョンの最終ステージ「変革の実現」として、事業・人材・イノベーションに関する3つの戦略とそれらを支えるサステナビリティ・DXの2つの基盤強化に取り組む第18次中期経営計画(2023年4月～2026年3月)をスタートさせています。

朝日工業社は2025年4月に創立100周年を迎えますが、現在100周年記念事業の一環として「ASAHI-VISION 100」に続く次の長期ビジョンの策定を進めています。カーボンニュートラルの実現をも踏まえた未来の方向性を定め、新たな価値の創造と企業理念の実現への挑戦を続けていきます。



長期ビジョン「ASAHI-VISION 100」

さまざまな可能性に挑戦する「オンリーワン・カンパニー」

- 当社グループは、さまざまなチャンスや問題に果敢に取り組み、価値ある挑戦を続けて、あらゆる人にとって、さらに魅力ある企業集団となることを目指します。
- 当社グループは、将来を見据えた積極的な経営と社会やお客さまのニーズを的確に捉えた独自の技術・サービスで、他社とは何か違う、他社より一歩先を行く、「オンリーワン」の企業集団を目指します。

2025年



おかげさまで100周年

2025年4月 創立100周年

新たな長期ビジョンの策定による
次なる価値創造への挑戦

企業理念の実現

本中期経営計画は、長期ビジョン「ASAHI-VISION 100」の最終ステージとして、そのビジョンで目指す姿を追い求めるとともに、「人間・社会・地球環境の持続可能な発展(サステナビリティ)」に資する事業活動を推進するものですが、それを可能とするためには、何よりも収益力の強化と生産性の向上が不可欠であり、また新たな価値の創造に向けたイノベーションが重要となります。

本中計期間中の2025年4月に当社は創立100周年の節目を迎えますが、これを新たな出発点として、「100周年のその先へ」、当社グループは社会に対して新たな価値を創造する「オンリーワン」の存在を目指し、その基盤となるよう本中計に取り組んでいきます。

基本方針

100周年とその先へ向けて、3つの戦略とそれらを支える2つの基盤強化に取り組む。

- 事業戦略**
収益力の強化と生産性の向上
- 人材戦略**
人材の価値を最大限に引き出す
人的資本経営の実践
- イノベーション戦略**
研究開発の強化・推進と
新事業への挑戦

サステナビリティ基盤の強化

DX基盤の強化

成長戦略 (第18次中期経営計画の進捗)

主要計数目標の進捗

(単位:百万円)

	2024年3月期			2025年3月期	2026年3月期
	実績	目標	達成率	目標	目標
連結受注高	97,586	81,700	119.4%	87,500	87,500
設備工事業	93,161	75,900	122.7%		
機器製造販売事業	4,424	5,800	76.3%		
連結売上高	91,676	88,700	103.4%	92,500	91,500
設備工事業	88,235	82,900	106.4%		
機器製造販売事業	3,441	5,800	59.3%		
連結営業利益	4,568	2,900	179.1%	3,600	3,250
連結当期純利益	3,712	2,500	171.1%	3,100	2,650
連結自己資本利益率(ROE)	10.0%	8.0%	125.0%	8.0%	8.0%
連結配当性向	41.6%	40.0%	104.0%	40.0%	40.0%

2024年3月期の決算について

受注高、売上高、各段階利益のすべてにおいて目標を上回る結果

設備工事業 手持ち工事の順調な進捗により大幅に増収増益 **機器製造販売事業** 納入先の生産調整の影響などにより減収減益

段階利益の向上により、自己資本利益率(ROE)も10.0%と目標の8.0%を大幅に上回る。連結配当性向も41.6%と目標とした40.0%を上回る結果となった。

2025年3月期の当初予想と今後の事業展開について

売上高は増収見込み

設備工事業 前期からの豊富な繰越高が進捗 **機器製造販売事業** 需要が回復傾向にあり、生産計画が順調に推移

その一方で、

継続する資機材の高騰 + 労働者不足によるコストの上昇が見込まれる

しかし、近年は大型の半導体工場やデータセンター、研究施設などの案件を受注し、施工中である。今後も最先端の工場など、当社の技術力を活かせる施設の設備投資が多数予定されている。⇒ **当社にとって中長期的に豊富な受注機会が続くと予想する**

好調であった前期実績に比べ、全体的に抑制的な数値目標としたが、事業目標を超える業績の達成に向けて全社一丸となって取り組む。

事業戦略 ~収益力の強化と生産性の向上~ の進捗

重点項目	進捗状況
【設備工事業】 ① 戦略的かつ長期的視野に立った受注活動の推進	●元請、リニューアル比率の向上を目標としたが、超大型半導体工場やハイパースケールデータセンターなどの案件が組下であったことが影響し、両比率とも前期比で低下
② 全社的な設計・施工体制、サポート体制の構築	●施工図作成のセンター化を推進し、新築大型工事はほぼ100%をサポート組織内で作成 ●超大型の施工案件については、事業店の管轄を超えた全社的な設計・施工体制を実現
【機器製造販売事業・海外事業】 事業領域の拡充	●機器事業部、技術研究所、工事店が事業領域の拡充に向けて連携し、新規客先への訪問などを展開、アグリ関連の空調機を開発中 ●海外子会社の社員の技術力向上を目的に、親会社での集中的な教育・研修を実施
【グループ全体】 業務全般の見直しによる生産性の向上	●申請書類のワークフロー化による業務の効率化を実施 ●業務効率化に向けた社員アイデアの吸出しのための仕組みを整備予定

人材戦略 ~人材の価値を最大限に引き出す人的資本経営の実践~ の進捗

重点項目	進捗状況
人材の確保と育成	●多様な人材の確保に向けた採用活動を実施するほか、リファラル採用の導入を計画 ●採用において企業から直接アプローチするダイレクトオファーの仕組みを導入 ●教育制度の再構築に向けて専門部署を設置予定
人事制度の再構築	●従業員のモチベーションアップを目的とした評価制度の改定 ●特殊資格保有者のスペシャリストとしての評価、活用を計画 ●定年再雇用者の活躍促進に向けて制度改定を実施、再雇用後の業務およびワークライフバランスに応じて待遇が変化するコースを設定し、再雇用者が選択

イノベーション戦略 ~研究開発の強化・推進と新事業への挑戦~ の進捗

重点項目	進捗状況
研究開発の基盤強化と推進	●新技術研究所の建設が計画通り進行、従来からの研究に加えて新たな事業開発のための研究を進める ●ムコライス(コメ型経口ワクチン)の研究がAMED事業に採択されたことで新たなステップへと進展 ●研究人員の強化に向けての積極的な採用活動の展開など、共同研究とともに大学との連携を深める
新規事業とイノベーションの創出	●新たな事業の展開に向けて、当社にとって一番シナジーを発揮できる業界・事業が何かを検討中

サステナビリティ基盤の強化の進捗

重点項目	進捗状況
脱炭素を実現する技術・製品開発の推進	●新技術研究所において液冷空調などのZEBの要素技術の実証を計画 ●外部機関や大学との共同研究により脱炭素技術の開発を推進中
事業活動におけるCO ₂ 排出量の確実な把握と削減	●CO ₂ 排出量の確実な把握に向けて、外部機関の提供するサービスの利用を開始 ●再生可能エネルギー電力の導入、太陽光発電パネルの設置によるCO ₂ 排出量の削減を計画
サステナビリティ経営を支えるガバナンス体制の拡充	●パーパスの策定およびマテリアリティの特定も含め、理念体系の再構築を進める

DX基盤の強化の進捗

重点項目	進捗状況
DXによる業務プロセスの変革	●朝日工業社グループ全体のDXの方向性を定めるDXビジョンの策定とともに、役職員のDXリテラシーの向上に向けた教育を実施
BIMの活用推進による建設DXの加速	●新技術研究所の建設現場をBIMによる設計積算プロセスと施工プロセスの連携におけるモデル現場として活用し、有効性を検証する
デジタル基盤の整備	●2要素認証システムの導入など、情報セキュリティの強化を実施 ●事業店および施工現場のネットワークを高速化、クラウドサービスの積極的な導入と活用を推進中